

【別紙】 令和5年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立 芝中 学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	賢く、美しく、逞しい生徒の育成
目指す学校像	<豊かな環境の中で生徒が主体的に学び、他者と協働し、逞しく、活気溢れる学校> ～家庭・地域の期待に応える学校、地域の宝として子どもたちを育てる学校～

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	5名
事務局 (教職員)	2名

領域	学 校 自 己 評 価			年 度 評 価 (令 和 年 月 日 現 在)		
	年 度 目 標			重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	現状と課題	重点目標	具体的方策			
組織運営	【現状】 目指す学校像の実現に向けて、課題に対し、分掌主任を中心としたチームで取り組む組織体制を構築している。 【課題】 より組織的な学校運営を進めるために各分掌ごとにPDCAサイクルを確立させることが必要。また、昨年度の不登校者について、支援率は100%であったが、不登校者数の割合が11.5%と高く、喫緊の課題である。	<input type="checkbox"/> 分掌ごとのPDCAサイクルの確立 <input type="checkbox"/> 不登校支援率100%と不登校生徒数の割合5%以内 ◇	<input type="checkbox"/> 学年・委員会重点目標シートを活用し、PDCAサイクルを生かして評価・改善をしながら課題解決を図る。 <input type="checkbox"/> 職員の自己評価シートに不登校支援率100%の目標と方策を設定する。 <input type="checkbox"/> 校内組織、関係機関と連携し個に応じた指導を行う。 ◇	<input type="checkbox"/> 重点目標シートを活用した主任との年3回の面談等により、PDCAサイクルが浸透してきている。 <input type="checkbox"/> 不登校支援率100%達成。ステップルーム登校12名。割合は減少傾向にあるが、まだ7.9% (1月末)と高く課題を残した。 ◇	A	<input type="checkbox"/> 教職員が減少する中においても教育の質が向上するよう校長の学校経営方針のもと、組織力を一層高める必要がある。 <input type="checkbox"/> 現在のステップルーム経営を継続しながら、不登校生徒一人ひとりの希望に沿えるよう選択肢を多く用意する必要がある。
	教育課程	<input type="checkbox"/> 一人一台端末の活用推進 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 自己評価シートや管理職による授業観察を活用し、端末を利用した授業の実施率を上げる。 <input type="checkbox"/> 端末を活用した授業実践の校内研修を行い授業改善につなげる。 ◇	<input type="checkbox"/> 通常学級担当教員の端末を活用した授業実施率100%達成。端末の活用率は日常的に85%と高くなった。端末を活用した校内授業研究会を実施。 ◇	A	<input type="checkbox"/> 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、一人一台端末の効果的な活用方法を研究する必要がある。
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和6年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・組織にとってPDCAサイクルの確立は必要である。引き続きお願いしたい。	
・不登校生徒の支援率100%は、細やかな対応の成果である。一方で教員の負担が多くなってしまうことが心配である。働き方改革とのバランスを見ながら、SCや外部との連携を進めていくことも必要である。	
・これからの時代、端末を有効に活用していくことは重要であるが、教員一人一人の個性が失われないように活用方法を工夫する必要がある。また、授業で対人関係を学ぶことも大切にしてほしい。	
・	
・	

開かれた学校づくり	<p>【現状】 コミュニティスクールとしての学校の役割を果たすために、子供達を地域で育てるという意識を醸成している。また非常災害時における地域の中の学校としての役割を発信している。</p> <p>【課題】 川口市委嘱研究の防災教育の中で地域との協働体制づくりを進め、生徒の共助の精神育成と防災拠点としての学校づくりが継続課題である。</p>	○防災拠点としての学校をつくるため地域との協働体制の構築	○防災サミットの実施（7月） ○地域合同防災訓練の実施（8月）	○防災に係る地域連携事業を通して、地域との協働体制を強化することができた。次年度に向け防災サミットを3月に実施予定。	A	○地域の防災力向上のためにも、生徒が学んだことを地域や家庭に伝えていく必要がある。 □継続可能な防災教育を検討・実施し、生徒の防災意識を高めていく必要がある。
		□生徒の共助の精神の育成	□生徒が主体の防災訓練の実施 □防災リーダー講習会の実施 □防災サミット、合同防災訓練時に生徒と地域の交流の場を設定する	□生徒アンケートから、防災に対する「知識」は大きく向上したが、防災に対する「意識」に大きな変化は見られなかった。	B	
				◇		
教職員の資質向上	<p>【現状】 教員個々の目標を把握し、その達成に向けて授業観察や面談を通じて指導、助言を図っている。</p> <p>【課題】 働き方改革（時間外在校時間年間360時間以内）をより一層推進することが課題である。</p>	○働き方改革の実現	○業務改善スタンダードに則った業務を行うことで在校時間を削減する。	○業務改善スタンダードが機能した一つの成果として、1月末時点での時間外在校時間300時間超え64.5%、360時間超え45.1%となった。（昨年度87.5%）	B	○教職員の働き方改革を実現するために、教育課程、日課、休日の学校行事等を改善する必要がある。
		□	□	□		
		◇	◇	◇		
施設・設備等の管理	<p>【現状】 安心・安全な教育活動を実践するために、施設設備の計画的な修繕を行っている。また、共生社会、避難所の視点から多目的トイレを設置する予定である。</p> <p>【課題】 施設設備の老朽化が課題。また、植樹（主に桜）の老木化による落枝事故防止が課題である。</p>	○施設管理事故ゼロ	○安全点検により、不具合箇所の早期発見・早期対応で事故防止を図る。 ○市と連携し、桜の植え替えと落枝防止のための剪定を行う。	○施設管理事故ゼロを達成。修繕は計画通り実施済み。今年度発見した施設設備の不具合は対応済。桜の植え替えは市と連携して実施中。	A	○点検等により修繕箇所の早期発見、早期対応を継続して行い、生徒にとって安全な施設設備を維持する必要がある。
		□	□	□		
		◇	◇	◇		

<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員は独居高齢者を把握している。それぞれの立場で、できることを共有することも考えられる。 ・町会との連携も引き続きお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、学校で学んだことを地域で発揮してくれることを期待している。 ・防災に対する意識を高めるためには、アンケートを定期的の実施する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の負担が大きいように感じる。部活動以外の業務も工夫改善しながら、一層働き方改革を推進する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが以前より良くなった。 ・桜の植え替えが始まったのは良かった。継続して計画的に進めてほしい。